

## 房総付加体で発見されたシュードタキライト様黑色断層物質について

## Analysis of pseudotachylite-like fault material discovered in the Boso peninsula

# 濱田 洋平 [1]; 廣野 哲朗 [2]

# Yohei Hamada[1]; Tetsuro Hirono[2]

[1] 阪大・理・宇宙地球; [2] 阪大・宇宙地球

[1] Earth and SpaceScience, Osaka Univ.; [2] Osaka Univ.

付加体浅部における断層のすべりは、津波の発生やその規模に大きく寄与する。付加体浅部における断層のすべり速度や変位など、すべり挙動を解明することは、非常に重要である。一方、房総半島南東部の江見層群は、先行研究により、付加体浅部に位置していたと報告されているため、付加体浅部に発達する断層の地震すべり特性を調べる上で、非常に適したフィールドである。本研究では、江見層群の野外地質調査を行い、そこに発達する断層からシュードタキライト様の黑色断層物質を発見した。この黑色断層物質では、光学顕微鏡観察によって、母岩と比較して粒径の減少、粒子の円磨化が観察され、また電子顕微鏡観察では、微細な網目状構造が観察された。この構造が、加熱に伴う溶融構造であるかを調べるため、母岩を用いた加熱実験後の観察を行った結果、このシュードタキライト様物質が形成され得ることを確認した。さらに、シュードタキライト形成の速度論を構築し、シュードタキライトの形成条件の議論と本研究で注目した断層における、地震時の温度プロファイルの推定を行った。